授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
人間の理解Ⅰ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、高齢者・障害者の人権擁護研修担当の経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

「人間の尊厳」を理解するためには、「尊厳」の内容を具現化することが必要であり、具体化していく過程を通して、介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や、配慮すべきことを同じ人として理解する。そのためには、自立・自律像の多面的理解を促し、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について、具体的な事例を取り上げ展開する。
コミュニケーションの意義を学習し、コミュニケーション能力の基盤をなす情報の受け渡しには様々な方法があることを理解し、適切な受け渡し方法を選びとることができる力を養う。また、「対話をする」、「意思の疎通を図る」、「説明責任がある」ということをふまえて、基礎的なコミュニケーション能力について学習する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。
介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につける。
介護実践のために必要な人間の理解をする。
他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 人間の尊厳と自立（人間の多面的理解①）
2 人間の尊厳と自立（人間の多面的理解②）
3 人間の尊厳と自立（人間の尊厳①）
4 人間の尊厳と自立（人間の尊厳②）
5 人間の尊厳と自立（自立・自律①）
6 人間の尊厳と自立（自立・自律②）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 介護における尊厳の保持・自立支援（権利擁護・アドボカシー①）
9 介護における尊厳の保持・自立支援（権利擁護・アドボカシー②）
10 介護における尊厳の保持・自立支援（人権尊重①）
11 介護における尊厳の保持・自立支援（人権尊重②）
12 介護における尊厳の保持・自立支援（身体的・精神的・社会的な自立支援①）
13 介護における尊厳の保持・自立支援（身体的・精神的・社会的な自立支援②）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「人間の理解」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
人間の理解Ⅱ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、高齢者・障害者とコミュニケーションを通して、信頼関係構築など実践経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。

［授業全体の内容の概要］

「人間の尊厳」を理解するためには、「尊厳」の内容を具現化することが必要であり、具体化していく過程を通して、介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や、配慮すべきことを同じ人として理解する。そのためには、自立・自律像の多面的理解を促し、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について、具体的な事例を取り上げ展開する。
コミュニケーションの意義を学習し、コミュニケーション能力の基盤をなす情報の受け渡しには様々な方法があることを理解し、適切な受け渡し方法を選びとることができる力を養う。また、「対話をする」、「意思の疎通を図る」、「説明責任がある」ということをふまえて、基礎的なコミュニケーション能力について学習する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。
介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につける。
介護実践のために必要な人間の理解をする。
他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 人間関係の形成（自己覚知）
2 人間関係の形成（他者理解）
3 人間関係の形成（ラポール）
4 人間関係の形成（その他）
5 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
6 コミュニケーションの基礎（意義、概要）
7 コミュニケーションの基礎（コミュニケーションを促す環境）
8 コミュニケーションの基礎（対人距離（物理的・心理的距離））
9 コミュニケーションの基礎（言語的コミュニケーション）
10 コミュニケーションの基礎（非言語的コミュニケーション）
11 コミュニケーションの基礎（受容・共感・傾聴）
12 コミュニケーションの基礎（機器を用いたコミュニケーション）
13 コミュニケーションの基礎（記述によるコミュニケーション）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］ （試験やレポートの評価基準など）
中央法規出版「人間の理解」	出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
社会の理解	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、その他介護支援専門員や福祉関連資格を有しており、それらの知識・経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
30	60	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

1、個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。
2、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。
3、介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。
4、介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度等の基礎的知識を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

1、個人と家族、個人と地域、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」の内容を明らかにしておく必要がある。そして「公助」は、社会システムを維持するための施策によって自立を実現するものであるということを理解していく中で、人として社会的存在であり続けることの意義を理解する。
2、日本国憲法が規定する生存権の性格を理解し、それを具体的に実現しようとする公的扶助等について学習する。また、病気やケガをしても安心して医療サービスを受けることのできる医療保険制度、加齢等により介護が必要になったときのための介護保険制度など、現在の主な社会保障の状況を、社会保障全体の関連を整理しながら理解することにより、社会保障制度がすべての国民の暮らしにとって必須であることを学習する。
3、介護保険制度と障害者自立支援制度の創設の背景と目的、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点について理解する。また、両制度が、高齢者や障害のある人の生活の中で実際にどのように活用されているかについて理解する。
4、個人情報保護、情報公開制度、第三者評価と成年後見制度、高齢者虐待防止法、日常生活自立支援事業に加えて、訪問販売などの不当な契約に対するクーリングオフ制度などの消費者保護関連の制度等を理解する。また、人の権利を守るもの、中でも日常的な生活に密接に関わる施策が、自立生活を支援するために必要な社会的な制度であることについても理解する。さらに、医療保険制度や生活習慣病予防等の健康づくり施策、介護と密接に関連する医療関係者との連携に必要な法規、介護を実践していく上で必要な基礎知識を学習する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。
社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する。
介護保険制度と障害者自立支援制度の基礎的知識を習得する。
個人情報保護や成年後見制度等の基礎的知識を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 生活と福祉（生産・労働、教育・養育、保健・福祉、生殖、安らぎ、交流、その他）
2 生活と福祉（家族の概念、変容、構造や形態、機能、役割、家族観の多様化）
3 生活と福祉（地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織）
4 生活と福祉（社会・組織の概念、機能、役割、グループ支援、組織化、エンパワメント）
5 生活と福祉（雇用労働の進行、女性労働の変化、雇用形態の変化、少子化、健康寿命の延長、余暇時間、生涯学習地域活動への参加、その他）
6 生活と福祉（産業化・都市化、地域社会の変化、生活の概念、福祉の考え方とその変遷、自助、互助、共助、公助）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 社会保障制度（社会保障の概念と範囲、役割と意義、理念）
9 社会保障制度（日本の社会保障制度の基本的な考え方、憲法との関係、戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備）
10 社会保障制度（国民皆保険、国民皆年金、社会福祉法、福祉六法）
11 社会保障制度（社会保障費用の適正化・効率化、地方分権、地域福祉の充実、社会保障構造改革）
12 社会保障制度（社会保障の財源、社会保険、社会扶助、公的保険制度、民間保険制度）
13 社会保障制度（人口動態の変化、少子高齢化、社会保障の給付と負担、持続可能な社会保障制度）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ
16 介護保険制度（介護保険制度創設の背景及び目的）
17 介護保険制度（介護保険制度改革）
18 介護保険制度（保険者と被保険者、保険給付と利用者負担、受給権者、介護サービス利用までの流れ、介護サービス等の種類・内容、介護サービス情報の公表、介護予防の概念）
19 介護保険制度（国・都道府県・市町村・指定サービス事業所・国民健康保険団体連合会の役割）
20 介護保険制度（介護保険制度における専門職の役割：介護支援専門員・関連専門職種の役割）
21 確認ﾃｽﾄ3・採点・解説・やり直し
22 障害者自立支援制度（社会福祉基礎構造改革と障害者施策、障害者基本計画、新障害者プラン、支援費制度、障害者自立支援法の目的）
23 障害者自立支援制度（自立支援給付と利用者負担、事業者及び施設、専門職の役割、障害福祉サービス利用の流れ、障害福祉サービスの種類・内容）
24 障害者自立支援制度（団体の機能と役割：国・都道府県・市町村・指定サービス事業所・国民健康保険団体連合会の役割）
25 介護実践に関する諸制度（個人情報保護に関する制度、成年後見制度、社会福祉法における権利擁護のしくみ、消費者保護法、高齢者虐待防止法）
26 介護実践に関する諸制度（高齢者保健医療制度、生活習慣病予防その他の健康づくりのための施策、結核・感染症対策、難病対策、HIV／エイズ予防対策）
27 介護実践に関する諸制度（医療関係者に関する法規、医療関係施設に関する法規）
28 介護実践に関する諸制度（生活扶助、介護扶助）
29 確認ﾃｽﾄ4・採点・解説・やり直し
30 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「社会と制度の理解」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
レクリエーション概論	（講義）	池田輝大

［実務経験及び授業との関連性］

レクリエーションインストラクター（日本レクリエーション協会）の資格を有し、チャイルドスポーツインストラクターの経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

1、レクリエーションの意義とレクリエーション運動の歴史・使命・仕組み等、制度について理解を深める。その上で、レク・インストラクターの役割、対人関係のあり方を確認する。
2、現代社会の中で、個人のライフスタイルや家族、地域社会の置かれている状況、少子高齢社会の課題を確認し、レクリエーション支援が必要とされる（活用ができる）具体的な場面について理解を深める。
3、楽しさを原動力としたレクリエーション事業について理解を深め、計画・実施・評価の方法、安全管理について学習し、人材育成のあり方や、主体的に活動を起こすノウハウを身につける。

［授業全体の内容の概要］

レクリエーションの発展過程を見据えながら目標と理念、レクリエーションの展開方法などを理解する。また、高齢者や障害者に対するレクリエーションの与える影響などを踏まえたうえで、生きがい支援やリハビリテーションとしてのレクリエーション計画・実施・評価の方法や安全管理について学習する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

「レクリエーションの基礎理論」、「レクリエーション支援論」、「レクリエーション事業論」、それぞれの「科目のねらい」が達成されている。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 レクリエーションの基礎理論（レクリエーションの意義）
2 レクリエーションの基礎理論（レクリエーション運動を支える制度）
3 レクリエーションの基礎理論（レクリエーション・インストラクターの役割）
4 レクリエーション支援論（ライフスタイルとレクリエーション）
5 レクリエーション支援論（少子高齢社会の課題とレクリエーション）
6 レクリエーション支援論（地域とレクリエーション）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 レクリエーション事業論（レクリエーション事業とは）
9 レクリエーション事業論（事業計画Ⅰ：集団を介して個人にアプローチする事業のつくり方①）
10 レクリエーション事業論（事業計画Ⅰ：集団を介して個人にアプローチする事業のつくり方②）
11 レクリエーション事業論（事業計画Ⅱ：市民を対象とした事業のつくり方①）
12 レクリエーション事業論（事業計画Ⅱ：市民を対象とした事業のつくり方②）
13 レクリエーション事業論（安全管理）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］

（財）日本レクリエーション協会編
「レクリエーション支援の基礎
－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術－」

［成績判定基準］

（試験やレポートの評価基準など）
出席と試験により評価する。
優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
レクリエーション指導法	（演習）	池田輝大

［実務経験及び授業との関連性］

レクリエーションインストラクター（日本レクリエーション協会）の資格を有し、チャイルドスポーツインストラクターの経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
20	40	2学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

1、ホスピタリティートレーニングとアイスブレーキングを通して、個人や集団とのコミュニケーションをとる能力、集団の中のコミュニケーションを促進する方法を身につける。
2、目的にあわせたアクティビティを選択する方法、アクティビティの展開方法、相互作用の引き出し方と活用について学習する。
3、対象にあわせたアレンジ方法について学習する。
4、活動領域にあわせて、アクティビティを体験する。
5、指導演習を通して、対人関係のあり方、人材育成のあり方等の指導体験をする。

［授業全体の内容の概要］

ホスピタリティートレーニングやアイスブレーキングとは何かを理解して、コミュニケーション能力と促進方法を身につける学習とする。また、目的にあわせたアクティビティを選択、展開、引き出し方法と活用、更に、対象にあわせたアレンジ方法も学習する。学習した内容をもとにアクティビティ体験と指導体験にて、実践力を身につける。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

「コミュニケーション・ワーク」、「目的にあわせたレクリエーション・ワーク」、「対象にあわせたレクリエーション・ワーク」、「演習１」、「演習２」、それぞれの「科目のねらい」が達成されている。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 コミュニケーション・ワーク①（コミュニケーション・ワークⅠ：ホスピタリティとは）
2 コミュニケーション・ワーク②（コミュニケーション・ワークⅡ：ホスピタリティの示し方）
3 コミュニケーション・ワーク③（コミュニケーション・ワークⅢ：アイスブレーキングとは）
4 コミュニケーション・ワーク④（コミュニケーション・ワークⅣ：アイスブレーキング方法）
5 目的にあわせたレクリエーション・ワーク①（目的に沿ったアクティビティの選択）
6 目的にあわせたレクリエーション・ワーク②（アクティビティの展開方法）
7 目的にあわせたレクリエーション・ワーク③（相互作用の活用方法①）
8 目的にあわせたレクリエーション・ワーク④（相互作用の活用方法②）
9 目的にあわせたレクリエーション・ワーク⑤（指導演習1-1）
10 目的にあわせたレクリエーション・ワーク⑥（指導演習1-2）
11 対象にあわせたレクリエーション・ワーク①（対象にあわせたアレンジ方法①）
12 対象にあわせたレクリエーション・ワーク②（対象にあわせたアレンジ方法②）
13 対象にあわせたレクリエーション・ワーク③（指導演習2-1）
14 対象にあわせたレクリエーション・ワーク④（指導演習2-2）
15 演習１（演習1-1）
16 演習２（演習1-2）
17 演習３（演習1-3）
18 演習４（演習1-4）
19 演習５（演習1-5）
20 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
（財）日本レクリエーション協会編 「レクリエーション支援の基礎 －楽しさ･心地よさを活かす理論と技術－」	（試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
社会常識	（演習）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、高齢者・障害者（家族）とのコミュニケーションや礼節・接遇マナーを通して、信頼関係構築など実践経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

組織体のあり方、対人関係のあり方、（リーダーとなった場合の）人材育成のあり方について学習する。社会人としての心構えを持ち、職場でのルール・マナーや立ち居振る舞い、電話応対など必要な社会常識を身につける。また、社会に目を向ける感性や、現代を生きる人間としての生き方について考える力を養うことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

社会人としての心構えをはじめ、個人または集団での仕事の進め方、報告連絡相談の必要性を理解する。また、先輩や上司、利用者など、他者への言葉遣いや立ち振る舞い、接遇力を演習を通して学習する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

社会人として相応しく、職場のマナー、挨拶と敬語、電話応対、接遇マナーを身につけている。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 職場のマナー①（社会人としての心構え）
2 職場のマナー②（職場のマナー）
3 職場のマナー③（仕事の進め方）
4 職場のマナー④（「ほう、れん、そう」とは）
5 挨拶と敬語①（挨拶の種類、笑顔・お辞儀）
6 挨拶と敬語②（笑顔・お辞儀）
7 挨拶と敬語③（正しい敬語の使い方、応対の基本）
8 電話応対①（電話応対のマナー）
9 電話応対②（電話の受け方）
10 電話応対③（電話のかけ方）
11 電話応対④（状況別の電話応対）
12 接遇マナー①（接遇の心構え）
13 接遇マナー②（お茶の入れ方、出し方）
14 接遇マナー③（お見送り、後片付け、接遇の流れ）
15 効果測定

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
大原学園オリジナルテキスト 厚生労働省YES－プログラム認定 「PCP：ビジネスマナー」編	（試験やレポートの評価基準など） 出席と効果測定により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
情報科学演習	（演習）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、事例研究発表など作成したPCスキルを活かし経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

情報またはデータをどのように収集し、それを分析・加工することにより活用できる情報を作り出させ、それを表現する能力や基本的な技術を学ぶ。同時に、文書作成、作表などの基礎的な各種計算・集計・統計・発信を学ぶ。また、表計算や自動手順の処理を表現する手段としての関数を理解する。

［授業全体の内容の概要］

既存のソフトウェアを使用し、各種データ集計や統計処理について学び、そのデータを社内外へ報告するための技法（資料作成方法）について学習する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

各種計算・集計・統計方法を理解する。
分析したデータを社内外へ報告するための方法を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 データとは
2 データの集計①
3 データの集計②
4 データの活用（グラフ表現）①
5 データの活用（グラフ表現）②
6 データの集計、活用の演習
7 統計分析（分布・比率・平均値等）①
8 統計分析（分布・比率・平均値等）②
9 統計分析（分布・比率・平均値等）③
10 統計分析結果の報告（社内外）①
11 統計分析結果の報告（社内外）②
12 統計分析、統計分析結果の報告の演習
13 事例研究・分析①
14 事例研究・分析②
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
大原学園オリジナルテキスト 「PCP：パソコン実習基礎」編	（試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
人間と社会の総合	（講義）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

1、介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。
2、利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。
3、アカウンタビリティ（説明責任）や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。
4、介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や障害者自立支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、職業倫理観を養う。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「人間と社会」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の資質を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 人間の尊厳と自立
2 介護における尊厳の保持・自立支援
3 人間関係の形成
4 コミュニケーションの基礎①
5 コミュニケーションの基礎②
6 生活と福祉①
7 生活と福祉②
8 社会保障制度①
9 社会保障制度②
10 介護保険制度①
11 介護保険制度②
12 障害者自立支援制度①
13 障害者自立支援制度②
14 介護実践に関連する諸制度①
15 介護実践に関連する諸制度②

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
大原出版「介護福祉士予想個別問題集、介護福祉士予想模擬問題集」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
人間と社会特論Ⅰ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、その他介護支援専門員や福祉関連資格を有しており、それらの知識・経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための能力を養う学習とする。
介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、コミュニケーション能力を養うための学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「人間の理解Ⅰ・Ⅱ」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する。
介護場面における倫理的課題について対応できるための能力を身につける。
介護実践のために必要な人間の理解をする。
他者への情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 人間の尊厳と自立①（講義・演習）
2 人間の尊厳と自立②（講義・演習）
3 人間の尊厳と自立③（講義・演習）
4 介護における尊厳の保持・自立支援①（講義・演習）
5 介護における尊厳の保持・自立支援②（講義・演習）
6 介護における尊厳の保持・自立支援③（講義・演習）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 人間関係の形成①（講義・演習）
9 人間関係の形成②（講義・演習）
10 人間関係の形成③（講義・演習）
11 コミュニケーション①（講義・演習）
12 コミュニケーション②（講義・演習）
13 コミュニケーション③（講義・演習）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「人間の理解」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
人間と社会特論Ⅱ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、その他介護支援専門員や福祉関連資格を有しており、それらの知識・経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

1、個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。
2、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。
3、介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援制度について、介護実践に必要な観点から知識を習得する学習とする。
4、介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度等の知識を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「社会の理解」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

個人、家族、近隣、社会、の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。
社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する。
介護保険制度と障害者自立支援制度の知識を習得する。
個人情報保護や成年後見制度等の知識を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 生活と福祉①（講義・演習）
2 生活と福祉②（講義・演習）
3 生活と福祉③（講義・演習）
4 社会保障制度①（講義・演習）
5 社会保障制度②（講義・演習）
6 社会保障制度③（講義・演習）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 介護保険制度①（講義・演習）
9 介護保険制度②（講義・演習）
10 障害者総合支援制度①（講義・演習）
11 障害者総合支援制度②（講義・演習）
12 介護実践に関する諸制度①（講義・演習）
13 介護実践に関する諸制度②（講義・演習）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］ （試験やレポートの評価基準など）
中央法規出版「社会と制度の理解」	出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
福祉実務	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、その他介護支援専門員や福祉関連資格を有しており、それらの知識・経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

介護保険制度に基づいて本人負担額を計算、国や地方自治体に介護保険料を請求する知識を理解し、帳票類の作成や交付、介護報酬請求などさまざまな事務業務を、介護現場でも活かせることを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

介護保険制度の基礎知識を理解することを目的とし、介護が必要な状態の段階を把握し、介護サービスを利用する際の費用の流れ、国、市町村などの関わりを学習する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護保険制度、介護用語、介護報酬の請求についての知識、介護給付費単位数算定、介護給付費明細書作成方法についての知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護保険の概要①
2 介護保険の概要②
3 介護給付費請求のしくみ①
4 介護給付費請求のしくみ②
5 介護給付費明細書①
6 介護給付費明細書②
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 居宅サービス①
9 居宅サービス②
10 地域密着型サービス①
11 地域密着型サービス②
12 施設サービス①
13 施設サービス②
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
株式会社じほう「介護報酬ナビ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
手話	（講義）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理及び認知症実践指導者も行っており、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

身体障害者（言語障害・聴覚障害）に応じた介護に関する知識を習得させる。

［授業全体の内容の概要］

言語・聴覚障害者の理解とコミュニケーションの方法を学ぶ。
言語・聴覚障害者についての理解を深め、介護福祉士としての役割を学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

聴覚障害を持つ利用者とのコミュニケ-ション技術を習得し介護福祉士として自立支援の方法を学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 聴覚･言語障害の生理学について理解する
2 聴覚･言語障害者の心理を理解する
3 聴覚･言語障害者の生活について理解する（介護上の問題点）
4 コミュニケーションの方法について理解する(筆談･読話･手話）
5 補聴器などの補助具について学ぶ
6 手話の技術について学ぶ:簡単な手話による会話･歌などを通じてコミュニケーションの技術を学ぶ①
7 手話の技術について学ぶ:簡単な手話による会話･歌などを通じてコミュニケーションの技術を学ぶ②
8 手話の技術について学ぶ:簡単な手話による会話･歌などを通じてコミュニケーションの技術を学ぶ③
9 手話の技術について学ぶ:簡単な手話による会話･歌などを通じてコミュニケーションの技術を学ぶ④
10 手話の技術について学ぶ:簡単な手話による会話･歌などを通じてコミュニケーションの技術を学ぶ⑤
11 手話の技術について学ぶ:簡単な手話による会話･歌などを通じてコミュニケーションの技術を学ぶ⑥
12 手話の技術について学ぶ:簡単な手話による会話･歌などを通じてコミュニケーションの技術を学ぶ⑦
13 日常生活における介護:健康管理･身辺管理･家事など①
14 日常生活における介護:健康管理･身辺管理･家事など②
15 全体のまとめ

［使用テキスト･参考文献］

（財）全日本ろうあ連盟出版局『手話教室入門』
（財）全日本ろうあ連盟出版局『私たちの手話（1）』
大阪聴覚障害者の手話基準テキスト
中央法規:『形態別介護技術』

［成績判定基準］

（試験やレポートの評価基準など）

出席と試験により評価する。
優:80点以上、良:70点以上、可:60点以上、不可:59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅰ	（講義）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。とりわけ、介護実践は介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ（個別性）」を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護の歴史や介護問題の背景を理解する。
「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。
介護を必要とする人の生活や環境について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護を必要とする人の理解（生活の考え方、私たちの生活）
2 介護を必要とする人の理解（生活史、価値観、生活感）
3 介護を必要とする人の理解（生活習慣、生活様式等の多様性、その他）
4 介護を必要とする人の理解（健康、生活のリズム、生活文化、家族・世帯構成、役割）
5 介護を必要とする人の理解（すまいと環境、就労・雇用、収入・生計）
6 介護を必要とする人の理解（社会活動・余暇活動、レクリエーション、その他）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 介護を必要とする人の理解（障害のある人の生活ニーズ）
9 介護を必要とする人の理解（生活を支える基盤（各種年金制度、生活保護、介護保険））
10 介護を必要とする人の理解（生活を支えるサービスの現状と課題、その他）
11 介護を必要とする人の理解（生活、生活環境の考え方）
12 介護を必要とする人の理解（家族、地域、社会）
13 介護を必要とする人の理解（高齢者、障害者、家族同居、独居などの介護事例）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護の基本Ⅰ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅱ	（講義）	安達智一

[実務経験及び授業との関連性]

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

[授業の目的 ・ ねらい]

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

[授業全体の内容の概要]

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。とりわけ、介護実践は介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ（個別性）」を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。
ICFの考え方を、生活の観点から捉える。
リハビリテーションについて理解する。

[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法]

コマ数

1 自立に向けた介護（自立・自律の考え方、自己決定・自己選択）
2 自立に向けた介護（自立支援の考え方、自立支援の具体的展開）
3 自立に向けた介護（生活意欲への働きかけ、エンパワメント、その他）
4 自立に向けた介護（個別ケアの考え方、個別ケアの具体的展開、その他）
5 自立に向けた介護（ICFの考え方）
6 自立に向けた介護（ICFの視点にもとづく利用者のアセスメント、その他）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 自立に向けた介護（リハビリテーションの考え方）
9 自立に向けた介護（リハビリテーションの実際）
10 自立に向けた介護（病院・施設におけるリハビリテーション）
11 自立に向けた介護（在宅におけるリハビリテーション）
12 自立に向けた介護（介護予防）
13 自立に向けた介護（リハビリテーション専門職との連携、その他）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[成績判定基準]
中央法規出版「介護の基本Ⅰ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅲ	（講義）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。とりわけ、介護実践は介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ（個別性）」を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

尊厳を支える介護について理解する。
介護従事者の倫理について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護のはたらきと基本的視点（身体的援助とその意義）
2 介護のはたらきと基本的視点（家事支援とその意義）
3 介護のはたらきと基本的視点（生活支援ニーズを見いだす相談援助とその意義）
4 介護のはたらきと基本的視点（利用者・家族に対する精神的支援とその意義）
5 介護のはたらきと基本的視点（社会・文化的な援助とその意義）
6 介護のはたらきと基本的視点（その他）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 尊厳を支える介護（QOLの考え方）
9 尊厳を支える介護（ノーマライゼーションの考え方）
10 尊厳を支える介護（ノーマライゼーションの実現）
11 尊厳を支える介護（利用者主体の考え方）
12 尊厳を支える介護（利用者主体の実現）
13 尊厳を支える介護（利用者主体の支援）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護の基本Ⅰ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅳ	（講義）	可児勝代

[実務経験及び授業との関連性]

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	必修

[授業の目的 ・ ねらい]

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

[授業全体の内容の概要]

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。とりわけ、介護実践は介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ（個別性）」を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護実践における介護福祉士の役割について理解する。
介護実践における多職種との連携について理解する。
介護実践における地域との連携について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法]

コマ数

1 介護福祉士を取り巻く状況（少子高齢化、家族機能の変化、介護の社会化、高齢者虐待、介護ニーズの変化、その他）
2 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（介護福祉士の定義、義務、名称独占と業務独占、養成制度、登録状況）
3 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（専門職能団体の活動：専門職集団としての役割、機能、その他）
4 介護従事者の倫理（職業倫理）
5 介護従事者の倫理（利用者の人権と介護、プライバシーの保護）
6 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
7 介護実践における連携（多職種連携（チームアプローチ）の意義と目的）
8 介護実践における連携（他の福祉職種の機能と役割、連携）
9 介護実践における連携（保健医療職種の機能と役割、連携、その他の関連職種との連携）
10 介護実践における連携（地域連携の意義と目的）
11 介護実践における連携（地域住民・ボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割、連携）
12 介護実践における連携（地域包括支援センターの機能と役割、連携）
13 介護実践における連携（市町村、都道府県の機能と役割、連携、その他）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

[使用テキスト･参考文献]	[成績判定基準]
中央法規出版「介護の基本Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅴ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。とりわけ、介護実践は介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ（個別性）」を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護サービスの概要について理解する。
介護サービス提供の場の特性について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護サービス（介護サービスとケアマネジメント）
2 介護サービス（介護サービスの歴史的変遷と時代背景）
3 介護サービス（ケアマネジメントの流れとしくみ）
4 介護サービス（介護サービス計画）
5 介護サービス（介護サービスの確定、アセスメント）
6 介護サービス（多様化する介護サービス）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 介護サービス（介護保険のサービスの種類）
9 介護サービス（サービスの報酬）
10 介護サービス（サービスの算定基準）
11 介護サービス（介護サービス提供の場の特性－居宅系サービス）
12 介護サービス（介護サービス提供の場の特性－入所系サービス①）
13 介護サービス（介護サービス提供の場の特性－入所系サービス②）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護の基本Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅵ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションやICF、介護の倫理などを通して理解する。とりわけ、介護実践は介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、「その人らしさ（個別性）」を大切にすることなどを学ぶことが必要であり、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深める。さらにケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などについて学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護の実現を目指す。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活が営める生活環境を整えることが可能となるよう、危機管理や関係職種間の連携のあり方などを理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護における安全の確保について理解する。
リスクマネジメントについて理解する。
介護従事者の安全について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護における安全の確保とリスクマネジメント（観察、正確な技術、予測、分析）
2 介護における安全の確保とリスクマネジメント（セーフティマネジメント、緊急連絡システム）
3 介護における安全の確保とリスクマネジメント（転倒・転落防止、骨折予防）
4 介護における安全の確保とリスクマネジメント（防火・防災対策）
5 介護における安全の確保とリスクマネジメント（利用者の生活の安全（鍵の閉め忘れ、消費者被害、その他））
6 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
7 介護における安全の確保とリスクマネジメント（感染予防の意義と介護）
8 介護における安全の確保とリスクマネジメント（感染予防の基礎知識と技術）
9 介護における安全の確保とリスクマネジメント（感染管理、衛生管理）
10 介護における安全の確保とリスクマネジメント（施設での感染対策）
11 介護従事者の安全（心の健康管理（ストレス、燃えつき症候群、その他））
12 介護従事者の安全（身体の健康管理（感染予防と対策、腰痛予防と対策、その他））
13 介護従事者の安全（労働安全）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護の基本Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術Ⅰ	（講義）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護場面において適切な支援を行うためには、利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要である。そのため、コミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な技法の習得を目指す。また、介護におけるチームコミュニケーションのあり方について理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法を学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護におけるコミュニケーションの意義と目的について理解する。
利用者・家族とのコミュニケーションの方法について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護におけるコミュニケーションの基本（介護におけるコミュニケーションの意義、目的）
2 介護におけるコミュニケーションの基本（介護におけるコミュニケーションの基本、コミュニケーション効果）
3 介護におけるコミュニケーションの基本（介護技術とコミュニケーション）
4 介護におけるコミュニケーションの基本（利用者・家族との信頼関係の形式）
5 介護におけるコミュニケーションの基本（アセスメントにつながるコミュニケーション）
6 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
7 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（話を聴く技法）
8 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（利用者の感情表現を察する技法（気づき、洞察力、その他））
9 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（納得と同意を得る技法）
10 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（相談、助言、指導）
11 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（意欲を引き出す技法）
12 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（利用者本人と家族の意向の調整を図る技法）
13 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（複数利用者がいる場面でのコミュニケーション技法）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「コミュニケーション技術」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
コミュニケーション技術Ⅱ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護場面において適切な支援を行うためには、利用者や家族、他の専門職とのコミュニケーションが必要である。そのため、コミュニケーションの意義と目的を理解し、具体的な技法の習得を目指す。また、介護におけるチームコミュニケーションのあり方について理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法を学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法について理解する。
記録による情報の共有化の意義と目的について理解する。
会議の意義と目的について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（利用者の特性に応じたコミュニケーションの理解）
2 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（コミュニケーション障害のある利用者への対応視点、基本的対応）
3 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（高次機能障害、失語症、構音障害のある人とのコミュニケーション）
4 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（認知症のある高齢者、若年性認知症のある人とのコミュニケーション）
5 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（視覚障害、聴覚障害のある人とのコミュニケーション）
6 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション（知的障害、精神障害のある人とのコミュニケーション）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 介護におけるチームのコミュニケーション（介護における記録の意義、目的）
9 介護におけるチームのコミュニケーション（介護における記録の種類、記録の方法、留意点）
10 介護におけるチームのコミュニケーション（記録の管理、共有化）
11 介護におけるチームのコミュニケーション（情報通信技術を活用した記録の意義、活用の留意点、個人情報保護）
12 介護におけるチームのコミュニケーション（介護記録の活用、報告の意義、目的、方法、留意事項、その他）
13 介護におけるチームのコミュニケーション（会議の意義、目的、種類、会議の方法、留意点、その他）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「コミュニケーション技術」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術の基本	（演習）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
30	60	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、ICFの視点に基づいた介護方法についても学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営について理解する。
ICFにもとづくアセスメントについて理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 生活支援（生活の定義）
2 生活支援（生活支援の基本的な考え方①）
3 生活支援（生活支援の基本的な考え方②）
4 生活支援（日常生活の再構築・活性化①）
5 生活支援（日常生活の再構築・活性化②）
6 生活支援（生活支援における福祉用具の活用）
7 生活支援（生活支援における介護予防）
8 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
9 生活支援（ICFの視点にもとづくアセスメント①）
10 生活支援（ICFの視点にもとづくアセスメント②）
11 生活支援（演習課題1（個別ワーク））
12 生活支援（演習課題2（グループワーク））
13 生活支援（演習課題3（発表：さまざまな視点））
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ
16 生活支援（家庭生活の営みとは）
17 生活支援（生活設計の考え方）
18 生活支援（快適な室内環境整備①）
19 生活支援（快適な室内環境整備②）
20 生活支援（食生活の基本知識①）
21 生活支援（食生活の基本知識②）
22 生活支援（食生活の基本知識③）
23 確認ﾃｽﾄ3・採点・解説・やり直し
24 生活支援（被服生活の基本知識①）
25 生活支援（被服生活の基本知識②）
26 生活支援（演習課題4（個別ワーク））
27 生活支援（演習課題5（グループワーク））
28 生活支援（演習課題6（発表：さまざまな視点））
29 確認ﾃｽﾄ4・採点・解説・やり直し
30 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「生活支援技術Ⅰ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
福祉住環境Ⅰ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、また福祉住環境コーディネータの資格を有しており、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、安全で心地よい生活の場づくりについて学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

自立に向けた住環境を整備し、安全で心地よい生活の場づくりの方法について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 自立に向けた居住環境の整備（居住環境整備の意義と目的）

2 自立に向けた居住環境の整備（生活空間と介護（居場所とアイデンティティ、生活の場））

3 自立に向けた居住環境の整備（生活空間と介護（すまい、住み慣れた地域での生活の保障、その他））

4 自立に向けた居住環境の整備（居住環境のアセスメント（ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント））

5 自立に向けた居住環境の整備（安全で心地よい生活の場づくり（安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫①））

6 自立に向けた居住環境の整備（安全で心地よい生活の場づくり（安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫②））

7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し

8 自立に向けた居住環境の整備（住宅改修）

9 自立に向けた居住環境の整備（住宅のバリアフリー化）

10 自立に向けた居住環境の整備（ユニバーサルデザイン）

11 自立に向けた居住環境の整備（施設等での集住の場合の工夫・留意点（ユニットケア、居室の個室化、なじみの生活空間づくり①））

12 自立に向けた居住環境の整備（施設等での集住の場合の工夫・留意点（ユニットケア、居室の個室化、なじみの生活空間づくり②））

13 自立に向けた居住環境の整備（他の職種の役割と協働）

14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し

15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「生活支援技術Ⅰ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
福祉住環境Ⅱ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、また福祉住環境コーディネータの資格を有しており、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年後期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

高齢者や障がい者に対し、できるだけ自立しいきいきと生活できる住環境を提案できる知識を身につけることを学習する。医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身に付け、各種の専門家と連携をとりながら仕事に活かせることを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、安全で心地よい生活の場づくりについて学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

自立に向けた住環境を整備し、安全で心地よい生活の場づくりの方法について理解する。
東京商工会議所主催簿記福祉住環境コーディネータ3級合格レベルの知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 福祉住環境コーディネーターとは
2 少子高齢社会と共生社会への道
3 福祉住環境整備の重要性・必要性
4 在宅生活の維持とケアサービス
5 健康と自立
6 障害者が生活の不自由を克服する道
7 バリアフリーとユニバーサルデザインを考える
8 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
9 生活を支えるさまざまな用具
10 安全・快適な住まいの整備
11 ライフスタイルの多様化と住まい
12 安心できる住生活支援
13 安心して暮らせるまちづくり
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
東京商工会議所 「福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
福祉用具の理解	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、その他介護支援専門員や福祉関連資格を有しており、それらの知識・経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

高齢者は加齢による老化や心身の障害によって、自立した生活を送ることに困難を伴うことが少なくない。一口に障害といっても多種多様であり、介護に対する要望も多岐にわたっている。要介護老人の一人ひとりが安心して生活できるように援助していくことが必要である。そのために、老人介護の基礎を知り障害形態別の特性や特徴を学び基礎技術を身に付ける。また在宅老人や家族に対して相談や介護方法の指導ができるよう福祉用具・介護機器についても知識をもつ。

［授業全体の内容の概要］

高齢者に応じた介護に対する知識の習得と、個々の条件に応じた介護知識・技術の習得（具体的技術の習得）
各種福祉機器・用具について理解するとともに、その使用方法・介助方法を習得する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

福祉用具の知識を深め高齢者の障害の程度に応じた介護を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 高齢者の生活環境及び状況に対する理解
2 加齢から起因する生活行為の不自由により生じる介護上の問題
3 要介護高齢者に対する観察の必要性と仕方
4 要介護高齢者に対する福祉用具専門相談員の役割
5 福祉用具専門相談員としてのコミュニケーションの方法
6 高齢者介護の生活実態と福祉用具の活用①
7 高齢者介護の生活実態と福祉用具の活用②
8 高齢者介護の生活実態と福祉用具の活用③
9 福祉用具専門相談員の必要性･安全と事故防止
10 独居高齢者･老夫婦世帯への自立生活援助･家族への配慮と介護上の問題
11 介護事例演習
12 寝たきりの原因となる疾病や障害の基礎知識
13 寝食分離の意義と介護上の問題
14 残存機能の活用と福祉用具
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「福祉用具専門相談員研修用テキスト」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
家事介護	（演習）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、調理、洗濯、掃除、裁縫、買い物といった、自立に向けた家事の介助の技法について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

家事の意義と目的について理解する。
家事の介助の技法を身につける。
状況に応じた介助の方法について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 自立に向けた家事の介護（家事の意義・目的、家事に関する利用者のアセスメント、家事に参加することを支える介護）
2 自立に向けた家事の介護（調理①）
3 自立に向けた家事の介護（調理②）
4 自立に向けた家事の介護（調理③）
5 自立に向けた家事の介護（調理④）
6 自立に向けた家事の介護（調理⑤）
7 自立に向けた家事の介護（調理⑥）
8 自立に向けた家事の介護（洗濯、掃除・ごみ捨て）
9 自立に向けた家事の介護（裁縫①）
10 自立に向けた家事の介護（裁縫②）
11 自立に向けた家事の介護（裁縫③）
12 自立に向けた家事の介護（裁縫④）
13 自立に向けた家事の介護（裁縫⑤）
14 自立に向けた家事の介護（衣服・寝具の衛生管理）
15 自立に向けた家事の介護（買い物、家庭経営、家計の管理、他職種の役割と協働）

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「生活支援技術Ⅰ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
日常生活介護Ⅰ	（演習）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、身じたくに関する利用者のアセスメント方法や、介助の技法と留意点について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

自立に向けた身じたくの意義と目的について理解する。
生活習慣と装いの楽しみを支える介護について理解する。
状況に応じた身じたくについて理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 基本となる介護技術とは何か
2 アセスメントの意味、手法
3 自立に向けた身じたくの介護（身じたくの意義と目的）
4 自立に向けた身じたくの介護（身じたくに関する利用者のアセスメント）
5 自立に向けた身じたくの介護（生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫①）
6 自立に向けた身じたくの介護（生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫②）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 自立に向けた身じたくの介護（整容）
9 自立に向けた身じたくの介護（口腔の清潔）
10 自立に向けた身じたくの介護（衣類の着脱①）
11 自立に向けた身じたくの介護（衣類の着脱②）
12 自立に向けた身じたくの介護（衣類の着脱③）
13 自立に向けた身じたくの介護（他の職種の役割と協働）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「生活支援技術Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
日常生活介護Ⅱ	（演習）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、移動に関する利用者のアセスメント方法や、安全で気兼ねなく動けることを支えるための介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

自立に向けた移動の意義と目的について理解する。
安全で的確な移動、移乗の介護の技法について理解する。
利用者の状況に応じた移動の介護の留意点について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 自立に向けた移動の介護（移動の意義と目的）
2 自立に向けた移動の介護（ICFの視点にもとづくアセスメント①）
3 自立に向けた移動の介護（ICFの視点にもとづくアセスメント②）
4 自立に向けた移動の介護（安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫①）
5 自立に向けた移動の介護（安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫②）
6 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
7 自立に向けた移動の介護（歩行の介助の技法①）
8 自立に向けた移動の介護（歩行の介助の技法②）
9 自立に向けた移動の介護（車いすの介助①）
10 自立に向けた移動の介護（車いすの介助②）
11 自立に向けた移動の介護（安楽な体位の保持）
12 自立に向けた移動の介護（体位変換）
13 自立に向けた移動の介護（他の職種の役割と協働）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「生活支援技術Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
日常生活介護Ⅲ	（演習）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、食事に関する利用者のアセスメント方法や、おいしく食べることを支える介護の工夫や、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

自立に向けた食事や入浴・清潔保持の介護の意義と目的について理解する。
安全で的確な食事や入浴・清潔保持の介助の技法について理解する。
利用者の状態・状況に応じた介助の留意点について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 自立に向けた食事の介護（食事の意義と目的）
2 自立に向けた食事の介護（食事に関する利用者のアセスメント）
3 自立に向けた食事の介護（おいしく食べることを支える介護）
4 自立に向けた食事の介護（安全で的確な食事介助の技法①）
5 自立に向けた食事の介護（安全で的確な食事介助の技法②）
6 自立に向けた食事の介護（他の職種との役割と協働）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント）
9 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（爽快感・安楽を支える介護（爽快感・安楽を支える介護の工夫））
10 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（入浴、シャワー浴）
11 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（全身清拭）
12 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（足浴・手浴、洗髪）
13 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（他の職種の役割と協働）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「生活支援技術Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
日常生活介護Ⅳ	（演習）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、排泄に関する利用者のアセスメント方法や、安全・的確な排泄の介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

自立に向けた排泄の意義と目的について理解する。
安全・的確な排泄の介助の技法について理解する。
利用者の状態・状況に応じた介助の留意点について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 自立に向けた排泄の介護（排泄の意義・目的）
2 自立に向けた排泄の介護（排泄に関する利用者のアセスメント）
3 自立に向けた排泄の介護（気持ちよい排泄を支える介護）
4 自立に向けた排泄の介護（トイレ）
5 自立に向けた排泄の介護（ポータブルトイレ）
6 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
7 自立に向けた排泄の介護（採尿器、差込便器、導尿器）
8 自立に向けた排泄の介護（浣腸、坐薬挿入）
9 自立に向けた排泄の介護（頻尿、尿失禁への対応）
10 自立に向けた排泄の介護（便秘、下痢、便失禁への対応）
11 自立に向けた排泄の介護（おむつ①）
12 自立に向けた排泄の介護（おむつ②）
13 自立に向けた排泄の介護（他の職種との役割と協働）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「生活支援技術Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
日常生活介護Ⅴ	（演習）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、睡眠に関する利用者のアセスメント方法や、安眠を促すための介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

自立に向けた睡眠の意義と目的について理解する。
終末期における介護の意義と目的について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 自立に向けた睡眠の介護（睡眠の意義・目的）
2 自立に向けた睡眠の介護（睡眠に関する利用者のアセスメント（ICFの視点にもとづくアセスメント））
3 自立に向けた睡眠の介護（安眠のための介護（安眠のための介護の工夫））
4 自立に向けた睡眠の介護（安眠を促す介助の技法（不眠時の介助））
5 自立に向けた睡眠の介護（安眠を促す介助の技法（睡眠と薬））
6 自立に向けた睡眠の介護（他職種の役割と協働）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 終末期の介護（終末期における介護の意義、目的（終末期における尊厳の保持、事前意思確認））
9 終末期の介護（終末期における利用者のアセスメント（ICFの視点にもとづくアセスメント））
10 終末期の介護（医療との連携（看取りのための制度））
11 終末期の介護（終末期における介護、臨終時の介護、グリーフケア）
12 終末期の介護（死後の対応、家族ケア）
13 終末期の介護（他の職種の役割と協働）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「生活支援技術Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
利用者の状態・状況に応じた介護技術	（演習）	安達智一

[実務経験及び授業との関連性]

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	必修

[授業の目的 ・ ねらい]

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

利用者がなじみのある環境のもとでエンパワーメントをいかに引き出して活用し、自立支援に向けた実践方法について学ぶ。そのための生活を理解し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための方法を理解する。また、移動に関する利用者のアセスメント方法や、安全で気兼ねなく動けることを支えるための介助の技法、利用者の状態・状況に応じた介助の技法と留意点について学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

さまざまな利用者の状態・状況に応じた介護の技術について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法]

コマ数

1 生活支援（視覚障害者に応じた介護）
2 生活支援（聴覚・言語障害に応じた介護）
3 生活支援（運動機能障害に応じた介護）
4 生活支援（知的障害に応じた介護）
5 生活支援（発達障害に応じた介護）
6 生活支援（精神障害に応じた介護）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 生活支援（認知症のある人に応じた介護①）
9 生活支援（認知症のある人に応じた介護②）
10 生活支援（高次脳機能障害に応じた介護）
11 生活支援（内部障害に応じた介護①）
12 生活支援（内部障害に応じた介護②）
13 生活支援（重複障害に応じた介護）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[成績判定基準]
中央法規出版「生活支援技術Ⅲ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
認知症利用者の生活支援	（講義）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理及び認知症実践指導者も行っており、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

認知症の症状や行動障害について理解し、医学的側面からの治療やケアのポイント学ぶ。コミュニケーションの基本と手法、アクティビティ実践、地域の社会資源等しくみやサービスの活用法を学ぶ

［授業全体の内容の概要］

認知症の人の状況把握ができるスキル、コミュニケ―ション能力、アクティビティ・ケアのプログラムを運営できる力を身につける学習。家族やケアに拘わる専門職として認知症という病気のために起こるさまざまな症状の対応の仕方を理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

認知症ライフパートナーの学習を通じて知識や技術だけでなく資質を身に付け、知識・技術にて得た知識を基に認知症ライフパートナーとして必要な資質を総まとめする。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 認知症と認知症ライフパートナー　認知症の原因と種類

2 認知症の症状と経過　認知症の生活・認知症の治療とケア

3 認知症の人の心理　周知症状、BPSDの理解と対応

4 認知症と家族　認知症への人のケアのポイント

5 コミュニケーションの基本と手法　認知症におけるコミュニケーション・言葉を超えたコミュニケーション

6 認知症ケアとアクティビティ　アクティビティ・ケアの基本・アクティビティ・ケアの実際

7 認知症ケアに関するサービスと活用法　認知症ケアの地域での取り組み

8 試験対策①

9 試験対策②

10 試験対策③

11 試験対策④

12 試験対策⑤

13 試験対策⑥

14 試験対策⑦

15 試験対策⑧

［使用テキスト・参考文献］

一般社団法人「日本認知症コミュニケーション協議会」
認知症ライフパートナー検定試験3級公式テスト

［成績判定基準］

（試験やレポートの評価基準など）

出席と試験により評価する。
優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅰ	（演習）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、施設でのケアプラン作成の経験と培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護過程の展開方法を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他に、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護過程の意義と目的について理解する。
介護過程の展開について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護過程の意義（介護過程の意義、目的・目標）
2 介護過程の意義（介護過程の展開の基本的視点）
3 介護過程の展開（介護過程の全体像）
4 介護過程の展開（情報収集、アセスメント）
5 介護過程の展開（情報の解釈・関連づけ・統合）
6 介護過程の展開（課題の明確化）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 介護過程の展開（目標設定と計画）
9 介護過程の展開（支援の内容・方法の決定）
10 介護過程の展開（実施のための準備、実施の際の留意点）
11 介護過程の展開（実施状況の把握、記録）
12 介護過程の展開（評価の目的、評価の内容と方法）
13 介護過程の展開（評価の修正の検討、再アセスメントと計画の修正）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護過程」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅱ	（演習）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、施設でのケアプラン作成の経験と培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
30	60	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護過程の展開方法を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他に、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

自立に向けた介護過程の展開について理解する。
利用者の状況・状態に応じた介護過程の展開について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護過程の実践的展開（介護過程の意義と展開）
2 介護過程の実践的展開（介護過程の実践的展開とは）
3 介護過程の実践的展開（アセスメントの実際事例1）
4 介護過程の実践的展開（アセスメントの実際事例2）
5 介護過程の実践的展開（アセスメントの実際事例3）
6 介護過程の実践的展開（アセスメントの実際事例4）
7 介護過程の実践的展開（アセスメントの実際事例5）
8 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
9 介護過程の実践的展開（アセスメントの実際事例6）
10 介護過程の実践的展開（介護過程展開の実際事例7）
11 介護過程の実践的展開（介護過程展開の実際事例8）
12 介護過程の実践的展開（介護過程展開の実際事例9）
13 介護過程の実践的展開（介護過程展開の実際事例10）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ
16 介護過程の実践的展開（情報共有とアセスメントツール①）
17 介護過程の実践的展開（情報共有とアセスメントツール②）
18 介護過程の実践的展開（情報共有とアセスメントツールの活用①）
19 介護過程の実践的展開（情報共有とアセスメントツールの活用②）
20 介護過程の実践的展開（生活環境の変化を見据えた介護計画①）
21 介護過程の実践的展開（生活環境の変化を見据えた介護計画②）
22 確認ﾃｽﾄ3・採点・解説・やり直し
23 介護過程の実践的展開（サービス提供計画の理解）
24 介護過程の実践的展開（障害者の生活背景、障害者を取り巻く環境理解）
25 介護過程の実践的展開（障害の受容からエンパワーメント、ニーズの拡大）
26 介護過程の実践的展開（障害者の自立生活支援を支える社会資源）
27 介護過程の実践的展開（介護過程の展開と実習計画①）
28 介護過程の実践的展開（介護過程の展開と実習計画②）
29 確認ﾃｽﾄ4・採点・解説・やり直し
30 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護過程」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護過程Ⅲ	（演習）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、施設でのケアプラン作成の経験と培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
30	60	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護過程の展開方法を学習し、理解することは、利用者に対する質の高いサービス提供につながる。質の高いサービスを提供するためには、その意義、目的、目標を明確にして計画をする必要がある。また、その計画を実践し、評価することも大切である。その他に、情報共有や多職種との連携も重要であり、これらの技法について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

ケースカンファレンスやサービス担当者会議の意義と目的について理解する。
他の職種との連携の方法について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護過程とチームアプローチ（ケアマネジメントの全体像）
2 介護過程とチームアプローチ（介護過程とケアプラン）
3 介護過程とチームアプローチ（チームアプローチの意義）
4 介護過程とチームアプローチ（チームアプローチの実際）
5 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
6 介護過程の実践的展開（利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際事例1）
7 介護過程の実践的展開（利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際事例2）
8 介護過程の実践的展開（利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際事例3）
9 介護過程の実践的展開（利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際事例4）
10 介護過程の実践的展開（利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際事例5）
11 介護過程の実践的展開（利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際事例6）
12 介護過程の実践的展開（利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際事例7）
13 介護過程の実践的展開（利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際事例8）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ
16 介護過程の実践的展開（アセスメントツールの活用①）
17 介護過程の実践的展開（アセスメントツールの活用②）
18 介護過程の実践的展開（アセスメントツールの活用③）
19 介護過程の実践的展開（アセスメントツールの活用④）
20 介護過程の実践的展開（アセスメントツールの開発①）
21 介護過程の実践的展開（アセスメントツールの開発②）
22 確認ﾃｽﾄ3・採点・解説・やり直し
23 介護過程の実践的展開（終末期の介護過程①）
24 介護過程の実践的展開（終末期の介護過程②）
25 介護過程の実践的展開（介護過程の実践的展開と実習計画①）
26 介護過程の実践的展開（介護過程の実践的展開と実習計画②）
27 介護過程の実践的展開（介護過程の実践的展開と実習計画③）
28 介護過程の実践的展開（専門職としてあるべき姿、信頼される介護福祉士とは）
29 確認ﾃｽﾄ4・採点・解説・やり直し
30 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護過程」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅰ	（演習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
20	40	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護実習に向けての構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い介護実習中には実践力を身につけることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようにする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

①居宅・通所・入所等の介護施設の概要と利用者の生活像と、介護福祉士の役割を理解できる。
②基本的コミュニケーション方法やマナー、記録の取り方等を習得する。
③実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。
④実習後、実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 実習とは何か（実習の意義と目的、介護実習の種類）
2 多様なニーズと介護サービス、事前学習と他科目との関連
3 施設理解①（訪問介護事業、通所介護事業）
4 施設理解②（特別養護老人ホーム、老人保健施設）
5 施設理解③（ケアハウス、小規模多機能、グループホーム）
6 実習を始めるまでの手続き
7 実習生の心得（介護福祉士の職業倫理）、実習計画と記録とは
8 具体的な実習内容（実習モデル①、②、③）
9 実習体験の評価と整理の仕方（実習修了後に行うこと、実習の振り返りの重要性）
10 実習計画と記録①（個人票の書き方と作成）
11 実習計画と記録②（目標や行動計画の明確化）
12 実習計画と記録③（記録の必要性、観察記録の方法）
13 実習計画と記録④（プロセスレコードの説明と活用法）
14 実習計画と記録⑤（実習関連の記録物確認及び作成）
15 コミュニケーション、マナー、接遇、心身の健康管理
16 実習オリエンテーション（実習に当たっての心構え、注意点の再確認、過去の体験談・体験記録からの情報整理）
17 目標や行動計画の検証①（コミュニケーション実践、多様な介護サービスの理解の検証）
18 目標や行動計画の検証②（目標や行動計画の検証、困難事例や課題の検討）
19 実習振り返り（実習成果・課題の明確化、困難事例の検討、情報共有）
20 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護総合演習・実習」	（試験やレポートの評価基準など） 出席とレポート提出により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	（演習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
20	40	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護実習に向けての構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い介護実習中には実践力を身につけることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようにする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

①前段階実習の振り返りや他者とのディスカッション、プロセスレコードを通して自己を客観的に振り返り、次段階実習に向けた課題を明確化できる。
②生活支援技術の習得度に沿って、自己の課題を明確化できる。
③さまざまな利用者の生活を理解し、個別ケアとチームケア、多様なサービス形態のあり方を理解する。
④個別ケアにおける介護過程の重要性と、介護計画の立案に関する基本的な技術を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 次段階実習の意義と目的
2 様々な対象者への介護の理解、事前学習と他科目との関連
3 障害の種類と自立支援、個別介護計画（利用者の個別性）
4 施設理解①（身体障害者施設、重症心身障害者・児施設）
5 施設理解②（知的障害者更生施設）
6 実習を始めるまでの手続き、実習生の心得（介護福祉士の職業倫理）、実習計画と記録とは
7 具体的な実習内容（実習モデル①、②、③）
8 実習体験の評価と整理の仕方（実習修了後に行うこと、実習の振り返りの重要性）
9 実習計画と記録①（個人票の作成）
10 実習計画と記録②（目標や行動計画の明確化）
11 実習計画と記録③（介護過程の展開：情報収集の目的と活用）
12 実習計画と記録④（介護過程の展開：収集した情報の分析、利用者理解に活用）
13 実習計画と記録⑤（実習関連の記録物確認及び作成）
14 共感的・受容的に接する技術（バイスティックの7原則）、多職種との連携（チームケア）、緊急時の対応
15 コミュニケーション、マナー、接遇、心身の健康管理
16 実習オリエンテーション（実習に当たっての心構え、注意点の再確認、過去の体験談・体験記録からの情報整理）
17 目標や行動計画の検証①（様々な対象者への介護理解の検証）
18 目標や行動計画の検証②（目標や行動計画の検証、困難事例や課題の検討）
19 実習振り返り（実習成果・課題の明確化、困難事例の検討、情報共有）
20 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護総合演習・実習」	（試験やレポートの評価基準など） 出席とレポート提出により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅲ	（演習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
20	40	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護実習に向けての構え、予備知識、動機づけ等の準備を行い介護実習中には実践力を身につけることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようにする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

①前段階実習の振り返りを通して自己を客観的に振り返り、介護福祉士として次段階実習に向けた自身の課題を明確できる。
②実習で行った介護過程の実践と評価を通じて、介護福祉士に求められる知識・技術を包括的に整理・理解できる。
③事例研究や発表等を通して介護サービス提供における倫理的思考や説明責任の技能を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数
1 次段階実習の意義と目的
2 個別性と生活支援、ターミナルケアの理解
3 施設理解（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設）
4 実習を始めるまでの手続き、実習生の心得（介護福祉士の職業倫理）、実習計画と記録とは
5 具体的な実習内容（実習モデル①、②）
6 実習体験の評価と整理の仕方（実習修了後に行うこと、実習の振り返りの重要性）
7 介護過程の展開①
8 介護過程の展開②
9 介護過程の展開③
10 実習計画と記録①（個人票の作成）
11 実習計画と記録②（目標や行動計画の明確化）
12 実習計画と記録③（情報収集の目的と活用）
13 実習計画と記録④（収集した情報の分析、利用者理解に活用）
14 実習計画と記録⑤（実習関連の記録物確認及び作成）
15 コミュニケーション、マナー、接遇、心身の健康管理
16 実習オリエンテーション（実習に当たっての心構え、注意点の再確認、過去の体験談・体験記録からの情報整理）
15 目標や行動計画の検証①、介護過程の展開検証①
16 目標や行動計画の検証②、介護過程の展開検証②
17 目標や行動計画の検証③、介護過程の展開検証③
18 目標や行動計画の検証④、介護過程の展開検証④
19 実習振り返り（実習成果・課題の明確化、困難事例の検討、情報共有）
20 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護総合演習・実習」	（試験やレポートの評価基準など） 出席とレポート提出により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅰ	（実習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
60	120	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

1段階実習ではコミュニケーションの比較的とりやすい利用者を受け持ち、利用者との人間的なふれあいを通じて、利用者の需要と介護の機能、並びに施設職員の一般的な役割について学ぶ。そのために2～4名の利用者を学生が担当し、初歩的な日常生活活動を、指導者の指導を受け援助する。1週間の内1回以上をケースカンファレンスの時間にあてることとする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

利用者との人間的なふれあいを通じて、利用者のニーズと介護の機能、並びに施設職員の一般的な役割について学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

＊実習内容の詳細については実習のしおり･実習計画参照

1段階ではコミュニケーションの比較的とりやすい利用者を受け持ち、利用者との人間的なふれあいを通じて、利用者の需要と介護の機能、並びに施設職員の一般的な役割について学ぶ。そのために2～4名の利用者を学生が担当し、初歩的な日常生活活動を、指導者の指導を受け援助する。1週間の内1回以上をケースカンファレンスの時間にあてることとする。

1週目：訪問介護、通所介護等の特性

施設、事業所の役割、職員を通じて介護福祉士の役割を理解する

2週目：利用者とその家族を通じて日常生活を把握する

利用者の自立支援、家族の援助、サービスプログラム、地域連携などを理解する

3週目：初歩的な日常生活援助技術の実践

職員の指導のもと、利用者とのコミュニケーション、初歩的な日常生活活動の支援を実践する

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］ （試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅱ	（実習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
80	160	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

2段階実習では、重度生活障害を有する障害者又は老人の施設を実習施設とし、障害レベルに応じて求められる介護技術の適正な用い方について学ぶ。また、医療・看護との関連で独自の判断で行ってはならない仕事と連携の方法について学ぶ。ケースカンファレンスを通し、利用者の介護ニーズに対応する方法について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

障害レベルに応じて求められる介護技術の適正な用い方について学ぶ。
また、医療・看護との関連で独自の判断で行ってはならない仕事と連携の方法について学ぶ。
ケースカンファレンスを通し、利用者の介護ニーズに対応する方法について学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

＊実習内容の詳細については実習のしおり･実習計画参照

重度生活障害を有する障害者又は老人の施設を実習施設とし、障害レベルに応じて求められる介護技術の適正な用い方について学ぶ。また、医療・看護との関連で独自の判断で行ってはならない仕事と連携の方法について学ぶ。ケースカンファレンスを通し、利用者の介護ニーズに対応できる介護技能水準の向上を図る。

1～2名の利用者を担当し、利用者の情報収集、分析の方法について学ぶ。ケースカンファレンスの時間を設け指導者の指導を受ける。

1週目：施設全体の把握･利用者とのコミュニケーションを積極的に主体的に持つ
受け持ち利用者の決定

2週目：障害のレベルに応じた介護技術を展開し日常生活援助を実施する
受け持ち利用者の情報収集

3週目：医療、看護、他職種との連携の方法について学ぶ
受け持ち利用者の情報収集と分析（ケースカンファレンス参加）

4週目：受け持ち利用者の情報収集と分析（受け持ち利用者のケースカンファレンスの時間を設け指導を受ける）
実習の総点検とまとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］ （試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅲ	（実習）	安達智一　可児勝代

[実務経験及び授業との関連性]

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
88	176	2学年前期	必修

[授業の目的 ・ ねらい]

①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

3段階実習では施設運営プログラムに参加し、サービス全般について理解すると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学び、チームの一員として介護を遂行できるよう取り組む（現任準備教育）。さまざまなプログラムに参加し、利用者の24時間を通じての生活の把握、介護福祉士としての役割を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

サービス全般について理解すると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学ぶ。
チームの一員として介護を遂行できる。
さまざまなプログラムなどに参加し、利用者の24時間を通じての生活の把握、介護福祉士としての役割を学ぶ。

[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法]

コマ数

＊実習内容の詳細については実習のしおり･実習計画参照

3段階実習では施設運営プログラムに参加し、サービス全般について理解すると同時に個別の介護過程の展開、記録の方法について学び、チームの一員として介護を遂行できるよう取り組む（現任準備教育）。さまざまなプログラムに参加し、利用者の24時間を通じての生活の把握、介護福祉士としての役割を学ぶ。

1週目：施設全体の把握と受け持ち利用者の決定と情報収集

2週目：受け持ち利用者の介護計画立案（情報収集・分析・課題の抽出・具体的援助計画）

個々の利用者に応じた日常生活に関する介護技術の実践

3週目：施設運営、集団活動計画への参加（地域活動・家族指導・他機関との連携等についても学ぶ）

4週目：受け持ち利用者の介護計画の実施･評価（介護過程の展開）

実習の総点検（自己課題の確認）

[使用テキスト･参考文献]	[成績判定基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の総合	（演習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
45	90	2学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

1. 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。
2. 自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。
3. 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。
4. 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。
5. リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の資質を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護福祉士を取り巻く状況
2 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ
3 尊厳を支える介護①
4 尊厳を支える介護②
5 自立に向けた介護①
6 自立に向けた介護②
7 介護を必要とする人の理解①
8 介護を必要とする人の理解②
9 介護サービス①
10 介護サービス②
11 介護実践における連携①
12 介護実践における連携②
13 介護実践における連携③
14 介護実践における連携④
15 介護従事者の倫理①
16 介護従事者の倫理②
17 介護における安全の確保とリスクマネジメント①
18 介護における安全の確保とリスクマネジメント②
19 介護従事者の安全
20 介護におけるコミュニケーションの基本
21 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①
22 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②
23 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション③
24 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション④
25 介護におけるチームのコミュニケーション①
26 介護におけるチームのコミュニケーション②
27 介護過程の意義
28 介護過程の展開
29 介護過程の実践的展開
30 介護過程とチームアプローチ
31 生活支援
32 自立に向けた居住環境の整備
33 自立に向けた身じたくの介護①
34 自立に向けた身じたくの介護②
35 自立に向けた移動の介護①
36 自立に向けた移動の介護②
37 自立に向けた食事の介護①
38 自立に向けた食事の介護②
39 自立に向けた入浴・清潔保持の介護①
40 自立に向けた入浴・清潔保持の介護②
41 自立に向けた排泄の介護①
42 自立に向けた排泄の介護②
43 自立に向けた家事の介護
44 自立に向けた睡眠の介護
45 終末期の介護

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
大原出版「介護福祉士予想個別問題集、介護福祉士予想模擬問題集」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護特論Ⅰ	（講義）	可児勝代

[実務経験及び授業との関連性]

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	選択

[授業の目的 ・ ねらい]

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護の基本Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術の基本」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

介護の歴史や介護問題の背景を理解する。
「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える。
介護を必要とする人の生活や環境について理解する。
「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解する。
ICFの考え方を、生活の観点から捉える。
リハビリテーションについて理解する。

[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法]

コマ数

1 介護を必要とする人の理解①（講義・演習）
2 介護を必要とする人の理解②（講義・演習）
3 介護を必要とする人の理解③（講義・演習）
4 自立に向けた介護①（講義・演習）
5 自立に向けた介護②（講義・演習）
6 自立に向けた介護③（講義・演習）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 生活支援①（講義・演習）
9 生活支援②（講義・演習）
10 生活支援③（講義・演習）
11 生活支援④（講義・演習）
12 生活支援⑤（講義・演習）
13 生活支援⑥（講義・演習）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

[使用テキスト･参考文献]	[成績判定基準]
中央法規出版「介護の基本Ⅰ、生活支援技術Ⅰ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護特論Ⅱ	（講義）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護の基本Ⅲ・Ⅳ・日常生活介護Ⅰ・Ⅱ」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

尊厳を支える介護について理解する。
介護従事者の倫理について理解する。
介護実践における介護福祉士の役割・多職種との連携・地域との連携について理解する。
自立に向けた身じたくの意義と目的について理解する。
生活習慣と装いの楽しみを支える介護について理解する。
状況に応じた身じたくについて理解する。
自立に向けた移動の意義と目的について理解する。
安全で的確な移動、移乗の介護の技法について理解する。
利用者の状況に応じた移動の介護の留意点について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護のはたらきと基本的視点①（講義・演習）
2 介護のはたらきと基本的視点②（講義・演習）
3 尊厳を支える介護①（講義・演習）
4 尊厳を支える介護②（講義・演習）
5 介護福祉士を取り巻く状況・介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ（講義・演習）
6 介護従事者の倫理（講義・演習）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 介護実践における連携①（講義・演習）
9 介護実践における連携②（講義・演習）
10 自立に向けた身じたくの介護①（講義・演習）
11 自立に向けた身じたくの介護②（講義・演習）
12 自立に向けた移動の介護①（講義・演習）
13 自立に向けた移動の介護②（講義・演習）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護の基本Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護特論Ⅲ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士として従事し、その他介護支援専門員や福祉関連資格を有しており、それらの知識・経験を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「介護の基本Ⅴ・Ⅵ・日常生活介護Ⅳ」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護サービスの概要について理解する。
介護サービス提供の場の特性について理解する。
介護における安全の確保について理解する。
リスクマネジメントについて理解する。
介護従事者の安全について理解する。
自立に向けた排泄の意義と目的について理解する。
安全・的確な排泄の介助の技法について理解する。
利用者の状態・状況に応じた介助の留意点について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 介護サービス①（講義・演習）
2 介護サービス②（講義・演習）
3 介護における安全の確保とリスクマネジメント①（講義・演習）
4 介護における安全の確保とリスクマネジメント②（講義・演習）
5 介護従事者の安全①（講義・演習）
6 介護従事者の安全②（講義・演習）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 自立に向けた排泄の介護①（講義・演習）
9 自立に向けた排泄の介護②（講義・演習）
10 自立に向けた排泄の介護③（講義・演習）
11 自立に向けた排泄の介護④（講義・演習）
12 自立に向けた排泄の介護⑤（講義・演習）
13 自立に向けた排泄の介護⑥（講義・演習）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「介護の基本Ⅱ、生活支援技術Ⅱ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護特論Ⅳ	（講義）	可児勝代

[実務経験及び授業との関連性]

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理も行っている。経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	選択

[授業の目的 ・ ねらい]

「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「日常生活介護Ⅲ・Ⅴ・利用者の状態・状況に応じた介護技術」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

自立に向けた食事や入浴・清潔保持の介護の意義と目的について理解する。
安全で的確な食事や入浴・清潔保持の介助の技法について理解する。
利用者の状態・状況に応じた介助の留意点について理解する。
自立に向けた睡眠の意義と目的について理解する。
終末期における介護の意義と目的について理解する。
さまざまな利用者の状態・状況に応じた介護の技術について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法]

コマ数

1 自立に向けた食事の介護①（講義・演習）
2 自立に向けた食事の介護②（講義・演習）
3 自立に向けた入浴・清潔保持の介護①（講義・演習）
4 自立に向けた入浴・清潔保持の介護②（講義・演習）
5 自立に向けた睡眠の介護①（講義・演習）
6 自立に向けた睡眠の介護②（講義・演習）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 終末期の介護①（講義・演習）
9 終末期の介護②（講義・演習）
10 生活支援①（講義・演習）
11 生活支援②（講義・演習）
12 生活支援③（講義・演習）
13 生活支援④（講義・演習）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

[使用テキスト･参考文献]	[成績判定基準]
中央法規出版「生活支援技術Ⅱ・Ⅲ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実践Ⅰ	（演習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

・実際の介護現場での体験を通じて、自分の適性を確認できるようにする。
・働くことの意味と厳しさ、楽しさを体感し、自分の就職活動の幅を広げる。

［授業全体の内容の概要］

企業や施設等での研修を通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、学校生活やアルバイトでは得ることのできないことを学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・実際の介護現場での体験を通じて、自分の適性を確認できるようにする。
・働くことの意味と厳しさ、楽しさを体感し、自分の就職活動の幅を広げる。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

・基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する。
・できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持つ。認知症高齢者についても、
・コミュニケーションの機会を待つ。
・補助的業務（食事、入浴、排泄関連業務、環境整備等）を経験する。
・レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に、利用者とともに参加する。
・軽度および重度の利用者について、食事・口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を職員指導下で経験する。
・環境整備の方法について説明を受ける。
・ボランティアの活動状況や内容等の説明を受ける。
・主な福祉用具（車イス、自助具等）を利用している利用者の介護を経験する。
・自立のための福祉用具の使用方法、取り扱いについて説明を受ける。
・居室の環境、バリアフリーなどを見学する。
・地域の関係機関等との連携について説明を受ける。
・PT，OT，ST等による機能訓練の場面を見学する。
・主な医療器具や福祉用具の使用場面を見学する。
・各職種から、それぞれの業務内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける。
・申し送りの場面、カンファレンスを見学する。
・施設の概要や特徴、取り組み、利用者、一日のプログラム、職員体制について、説明を受ける。
・一人の利用者を決めて、その人の個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、その人らしさについてまとめをする。

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］ （試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実践Ⅱ	（演習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

・実際の介護現場での体験を通じて、自分の適性を確認できるようにする。
・働くことの意味と厳しさ、楽しさを体感し、自分の就職活動の幅を広げる。

［授業全体の内容の概要］

企業や施設等での研修を通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、学校生活やアルバイトでは得ることのできないことを学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・実際の介護現場での体験を通じて、自分の適性を確認できるようにする。
・働くことの意味と厳しさ、楽しさを体感し、自分の就職活動の幅を広げる。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

・基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する。
・できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持つ。認知症高齢者についても、
・コミュニケーションの機会を待つ。
・補助的業務（食事、入浴、排泄関連業務、環境整備等）を経験する。
・レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に、利用者とともに参加する。
・軽度および重度の利用者について、食事・口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を職員指導下で経験する。
・環境整備の方法について説明を受ける。
・ボランティアの活動状況や内容等の説明を受ける。
・主な福祉用具（車イス、自助具等）を利用している利用者の介護を経験する。
・自立のための福祉用具の使用方法、取り扱いについて説明を受ける。
・居室の環境、バリアフリーなどを見学する。
・地域の関係機関等との連携について説明を受ける。
・PT，OT，ST等による機能訓練の場面を見学する。
・主な医療器具や福祉用具の使用場面を見学する。
・各職種から、それぞれの業務内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける。
・申し送りの場面、カンファレンスを見学する。
・施設の概要や特徴、取り組み、利用者、一日のプログラム、職員体制について、説明を受ける。
・一人の利用者を決めて、その人の個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、その人らしさについてまとめをする。

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］ （試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実践Ⅲ	（演習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

・実際の介護現場での体験を通じて、自分の適性を確認できるようにする。
・働くことの意味と厳しさ、楽しさを体感し、自分の就職活動の幅を広げる。

［授業全体の内容の概要］

企業や施設等での研修を通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、学校生活やアルバイトでは得ることのできないことを学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・実際の介護現場での体験を通じて、自分の適性を確認できるようにする。
・働くことの意味と厳しさ、楽しさを体感し、自分の就職活動の幅を広げる。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

・基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する。
・できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持つ。認知症高齢者についても、
・コミュニケーションの機会を待つ。
・補助的業務（食事、入浴、排泄関連業務、環境整備等）を経験する。
・レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に、利用者とともに参加する。
・軽度および重度の利用者について、食事・口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を職員指導下で経験する。
・環境整備の方法について説明を受ける。
・ボランティアの活動状況や内容等の説明を受ける。
・主な福祉用具（車イス、自助具等）を利用している利用者の介護を経験する。
・自立のための福祉用具の使用方法、取り扱いについて説明を受ける。
・居室の環境、バリアフリーなどを見学する。
・地域の関係機関等との連携について説明を受ける。
・PT，OT，ST等による機能訓練の場面を見学する。
・主な医療器具や福祉用具の使用場面を見学する。
・各職種から、それぞれの業務内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける。
・申し送りの場面、カンファレンスを見学する。
・施設の概要や特徴、取り組み、利用者、一日のプログラム、職員体制について、説明を受ける。
・一人の利用者を決めて、その人の個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、その人らしさについてまとめをする。

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］ （試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護実践Ⅳ	（演習）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年後期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

・実際の介護現場での体験を通じて、自分の適性を確認できるようにする。
・働くことの意味と厳しさ、楽しさを体感し、自分の就職活動の幅を広げる。

［授業全体の内容の概要］

企業や施設等での研修を通じて、社会人として組織に参加・貢献する経験を積み、学校生活やアルバイトでは得ることのできないことを学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・実際の介護現場での体験を通じて、自分の適性を確認できるようにする。
・働くことの意味と厳しさ、楽しさを体感し、自分の就職活動の幅を広げる。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

・基本的な介護技術について、介護方法や内容、利用者との接し方等を見学する。
・できるだけ多くの利用者に自ら話しかけ、コミュニケーションの機会を持つ。認知症高齢者についても、
・コミュニケーションの機会を待つ。
・補助的業務（食事、入浴、排泄関連業務、環境整備等）を経験する。
・レクリエーション、グループ活動、行事、作業療法、外出等に、利用者とともに参加する。
・軽度および重度の利用者について、食事・口腔ケア、更衣、排泄、入浴、移動・移乗等の介護を職員指導下で経験する。
・環境整備の方法について説明を受ける。
・ボランティアの活動状況や内容等の説明を受ける。
・主な福祉用具（車イス、自助具等）を利用している利用者の介護を経験する。
・自立のための福祉用具の使用方法、取り扱いについて説明を受ける。
・居室の環境、バリアフリーなどを見学する。
・地域の関係機関等との連携について説明を受ける。
・PT，OT，ST等による機能訓練の場面を見学する。
・主な医療器具や福祉用具の使用場面を見学する。
・各職種から、それぞれの業務内容、チームケアの取り組みや連携について説明を受ける。
・申し送りの場面、カンファレンスを見学する。
・施設の概要や特徴、取り組み、利用者、一日のプログラム、職員体制について、説明を受ける。
・一人の利用者を決めて、その人の個性、嗜好、暮らしの様子、習慣、人間関係等について観察し、その人らしさについてまとめをする。

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］ （試験やレポートの評価基準など） 出席とレポートにより評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
発達と老化の理解	（講義）	佐藤由一

［実務経験及び授業との関連性］

総合病院に看護師として勤務経験があり、現在有料老人ホームを経営する傍ら高齢者・障害者のケアを行っている。経験で培った知識、現場での最新の技術を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
30	60	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護福祉士は、利用者のことを理解していなければならない。そのため、介護に必要なこころとかだらの仕組みを学ぶことは大切なことである。この科目では、人間が生まれてから高齢になるまでの過程を理解し、加齢に伴う障害や疾病について学ぶ。さらには、高齢者の身体面と精神面の関係、身体機能と精神機能の変化についての知識を深める。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

人間の成長の発達の基礎を理解する。
老年期の発達と成熟について理解する。
老化に伴うこころとからだの変化について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 人間の成長と発達の基礎的理解（発達の定義）
2 人間の成長と発達の基礎的理解（発達段階）
3 人間の成長と発達の基礎的理解（発達課題）
4 人間の成長と発達の基礎的理解（その他）
5 老年期の発達と成熟（老年期の定義）
6 老年期の発達と成熟（人格と尊厳、老いの価値）
7 老年期の発達と成熟（喪失体験、セクシュアリティ、その他）
8 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
9 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（防衛反応の変化）
10 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（回復力の変化）
11 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（適応力の変化）
12 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（身体的機能の変化と日常生活への影響）
13 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（知的・認知機能の変化と日常生活への影響）
14 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（精神的機能の変化と日常生活への影響、その他）
15 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
16 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（老化を受け止める高齢者の気持ち）
17 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち）
18 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（障害を受け止める高齢者の気持ち）
19 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（友人との別れを受けとめる高齢者の気持ち）
20 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（経済的不安を抱える高齢者の気持ち）
21 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活（その他）
22 確認ﾃｽﾄ3・採点・解説・やり直し
23 高齢者と健康（高齢者の症状の現れ方の特徴①）
24 高齢者と健康（高齢者の症状の現れ方の特徴②）
25 高齢者と健康（高齢者の体の不調の訴え①）
26 高齢者と健康（高齢者の体の不調の訴え②）
27 高齢者と健康（高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点）
28 高齢者と健康（保健医療職との連携）
29 確認ﾃｽﾄ4・採点・解説・やり直し
30 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「発達と老化の理解」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
認知症の理解	（講義）	佐藤由一

［実務経験及び授業との関連性］

総合病院に看護師として勤務経験があり、現在有料老人ホームを経営する傍ら高齢者・障害者のケアを行っている。経験で培った知識、現場での最新の技術を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
30	60	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

認知症のケアの歴史や理念を学ぶとともに、認知症の症状や行動障害等について学ぶ。また、医学的側面からみた認知症を学ぶ。また、家族への支援や、地域との連携、多職種協働に、認知症サポーター、地域ボランティア等よるケアの方法について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

認知症のケアの歴史や理念を理解する。
医学的側面から見た認知症について理解する。
認知症の人の特徴的な心理・行動について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 認知症を取り巻く状況（認知症ケアの歴史、理念）
2 認知症を取り巻く状況（認知症高齢者の数の推移、その他）
3 認知症を取り巻く状況（認知症高齢者支援対策の概要①）
4 認知症を取り巻く状況（認知症高齢者支援対策の概要②）
5 医学的側面から見た認知症の基礎（記憶障害、見当識障害、失語、失行、失認、その他）
6 医学的側面から見た認知症の基礎（うつ病、せん妄）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 医学的側面から見た認知症の基礎（アルツハイマー病、脳血管性疾患、レビー小体病）
9 医学的側面から見た認知症の基礎（ピック病、クロイツフェルト・ヤコブ病、その他）
10 医学的側面から見た認知症の基礎（若年性認知症）
11 医学的側面から見た認知症の基礎（検査、治療、予防）
12 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（認知症が及ぼす心理的影響）
13 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（認知症の人の特徴的な行動障害）
14 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（周辺症状の背景にある、認知症のある人の特徴的なこころの理解）
15 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
16 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（認知症の人の特性を踏まえたアセスメント①）
17 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（認知症の人の特性を踏まえたアセスメント②）
18 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（環境変化が認知症の人に与える影響）
19 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活（その他）
20 連携と協働（地域包括支援センターの役割・機能）
21 連携と協働（コミュニティ、地域連携、町づくり）
22 確認ﾃｽﾄ3・採点・解説・やり直し
23 連携と協働（ボランティアや認知症サポーターの役割・機能）
24 連携と協働（多職種協働の継続的ケア）
25 家族への支援（家族の認知症の受容の過程での援助）
26 家族への支援（家族の介護力の評価）
27 家族への支援（家族のレスパイト）
28 家族への支援（その他）
29 確認ﾃｽﾄ4・採点・解説・やり直し
30 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「認知症の理解」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
障害の理解	（講義）	佐藤由一

［実務経験及び授業との関連性］

総合病院に看護師として勤務経験があり、現在有料老人ホームを経営する傍ら高齢者・障害者のケアを行っている。経験で培った知識、現場での最新の技術を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
30	60	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

障害を持っている人と持っていない人の違いを理解するとともに、障害の捉え方や、ICF、様々な障害の種類と原因、特性について学ぶとともに、障害のある人の心理面について学ぶ。また、地域の連携や、障害者の家族、多職種との協働について学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

障害の概念について理解する。
障害の医学的側面について理解する。
障害のある人の心理について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 障害の基礎的理解（障害の捉え方、ICIDHからICFへの変遷、その他）
2 障害の基礎的理解（ノーマライゼーション、リハビリテーション、国際障害者年の理念、その他）
3 障害の医学的側面の基礎的知識（視覚障害の種類と原因と特性）
4 障害の医学的側面の基礎的知識（聴覚障害、言語機能障害の種類と原因と特性）
5 障害の医学的側面の基礎的知識（肢体不自由の種類と原因と特性）
6 障害の医学的側面の基礎的知識（内部障害の種類と原因と特性）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 障害の医学的側面の基礎的知識（精神障害の種類と原因と特性）
9 障害の医学的側面の基礎的知識（知的障害の種類と原因と特性）
10 障害の医学的側面の基礎的知識（発達障害の種類と原因と特性）
11 障害の医学的側面の基礎的知識（難病の種類と原因と特性）
12 障害の医学的側面の基礎的知識（障害が及ぼす心理的影響）
13 障害の医学的側面の基礎的知識（障害の受容）
14 障害の医学的側面の基礎的知識（適応と適応機制、その他）
15 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
16 障害の医学的側面の基礎的知識（障害の人の特性を踏まえたアセスメント①）
17 障害の医学的側面の基礎的知識（障害の人の特性を踏まえたアセスメント②）
18 連携と協働（行政・関係機関との連携）
19 連携と協働（地域自立支援協議会との連携）
20 連携と協働（その他の地域サポート体制）
21 確認ﾃｽﾄ3・採点・解説・やり直し
22 連携と協働（他の福祉職種との連携）
23 連携と協働（保健医療職種との連携）
24 連携と協働（その他のチームアプローチ）
25 家族への支援（家族の障害の受容の過程での援助）
26 家族への支援（家族の介護力の評価）
27 家族への支援（家族のレスパイト）
28 家族への支援（その他の家族支援）
29 確認ﾃｽﾄ4・採点・解説・やり直し
30 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「障害の理解」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅠ	（講義）	佐藤由一

［実務経験及び授業との関連性］

総合病院に看護師として勤務経験があり、現在有料老人ホームを経営する傍ら高齢者・障害者のケアを行っている。経験で培った知識、現場での最新の技術を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。また、多職種との連携に方法についても学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

こころのしくみに関する諸理論について理解する。
身じたくに関連したからだのしくみについて理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 こころのしくみの理解（基本的欲求、社会的欲求、その他）
2 こころのしくみの理解（自己概念に影響する要因、自立への意欲と自己概念、自己実現といきがい、その他）
3 こころのしくみの理解（こころのしくみに関する諸理論、学習・記憶・思考のしくみ）
4 こころのしくみの理解（感情のしくみ、意欲・動機づけのしくみ、適応のしくみ、その他）
5 からだのしくみの理解（からだのしくみの基礎：心身の調和、生命の維持・恒常のしくみ）
6 からだのしくみの理解（人体部位の名称、役割）
7 からだのしくみの理解（ボディメカニクス）
8 からだのしくみの理解（関節の可動域、その他）
9 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
10 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（身じたくの行為の生理的意味、爪の構造と機能、毛髪の構造と機能、その他）
11 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（口腔の清潔のしくみ、口臭のしくみ、その他）
12 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響）
13 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト・参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「こころとからだのしくみ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅡ	（講義）	佐藤由一

［実務経験及び授業との関連性］

総合病院に看護師として勤務経験があり、現在有料老人ホームを経営する傍ら高齢者・障害者のケアを行っている。経験で培った知識、現場での最新の技術を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。また、多職種との連携に方法についても学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

移動に関連したこころとからだのしくみについて理解する。
食事に関連したこころとからだのしくみについて理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 移動に関連したこころとからだのしくみ（移動行為の生理的意味）
2 移動に関連したこころとからだのしくみ（重心の移動、バランス、良肢位、その他）
3 移動に関連したこころとからだのしくみ（安全・安楽な移動、姿勢・体位の保持のしくみ）
4 移動に関連したこころとからだのしくみ（立位・座位保持、歩行、筋力・骨の強化のしくみ）
5 移動に関連したこころとからだのしくみ（移動に関する機能の低下、障害の原因、運動が及ぼす身体への負担）
6 移動に関連したこころとからだのしくみ（生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 食事に関連したこころとからだのしくみ（からだをつくる栄養素、１日に必要な栄養量・水分量）
9 食事に関連したこころとからだのしくみ（食べることの生理的意味、食欲・おいしさを感じるしくみ）
10 食事に関連したこころとからだのしくみ（のどが渇くしくみ、食べるしくみ）
11 食事に関連したこころとからだのしくみ（咀嚼運動、嚥下運動、嚥下反射、消化、その他）
12 食事に関連したこころとからだのしくみ（機能の低下・障害が及ぼす食事への影響、食べることに関する機能の低下・障害の原因）
13 食事に関連したこころとからだのしくみ（生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携：誤嚥予防、脱水の観察）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「こころとからだのしくみ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅢ	（講義）	佐藤由一

［実務経験及び授業との関連性］

総合病院に看護師として勤務経験があり、現在有料老人ホームを経営する傍ら高齢者・障害者のケアを行っている。経験で培った知識、現場での最新の技術を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。また、多職種との連携に方法についても学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

入浴、清潔保持、排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（清潔保持の生理的意味、清潔保持に関連したからだの器官、その他）

2 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（リラックス、爽快感を感じるしくみ、皮膚の汚れのしくみ、発汗のしくみ、その他）

3 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（入浴、清潔保持に関する機能の低下・障害の原因）

4 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響）

5 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（入浴が及ぼすからだへの負担）

6 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携）

7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し

8 排泄に関連したこころとからだのしくみ（排泄の生理的意味、便の性状・量・回数、尿の性状・量・回数）

9 排泄に関連したこころとからだのしくみ（尿の生成のしくみ、便の生成のしくみ、その他）

10 排泄に関連したこころとからだのしくみ（排尿のしくみ、排便のしくみ、その他）

11 排泄に関連したこころとからだのしくみ（排泄に関連する機能の低下・障害の原因）

12 排泄に関連したこころとからだのしくみ（機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響、その他）

13 排泄に関連したこころとからだのしくみ（生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携）

14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し

15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「こころとからだのしくみ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみⅣ	（講義）	佐藤由一

［実務経験及び授業との関連性］

総合病院に看護師として勤務経験があり、現在有料老人ホームを経営する傍ら高齢者・障害者のケアを行っている。経験で培った知識、現場での最新の技術を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。そのために、こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。また、多職種との連携に方法についても学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解する。
死について理解する。
医療職との連携について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（睡眠の生理的意味、睡眠時間）
2 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（睡眠のリズム、睡眠に関連したからだの器官、その他）
3 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（睡眠のしくみ、その他）
4 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（睡眠に関連する機能低下・障害の原因）
5 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響、その他）
6 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 死にゆく人のこころとからだのしくみ（生物学的な死、法律的な死、臨床的な死、その他）
9 死にゆく人のこころとからだのしくみ（身体の機能の低下の特徴、死後の身体的変化、その他）
10 死にゆく人のこころとからだのしくみ（死に対する恐怖・不安、「死」を受容する段階）
11 死にゆく人のこころとからだのしくみ（家族の「死」を受容する段階、その他）
12 死にゆく人のこころとからだのしくみ（呼吸困難時に行われる医療の実際と介護の連携）
13 死にゆく人のこころとからだのしくみ（疼痛緩和のために行われる医療の実際と介護の連携、その他）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「こころとからだのしくみ」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみの総合	（講義）	安達智一　可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

介護福祉士として従事し、それらの経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年後期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

1. 介護実践に必要な知識という観点から、からだとこころのしくみについての知識を養う。
2. 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養う。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「こころとからだのしくみ」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術、介護実習にて得た現場経験を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の資質を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 人間の成長と発達の基礎的理解
2 老年期の発達と成熟
3 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
4 高齢者と健康
5 認知症を取り巻く状況
6 医学的側面から見た認知症の基礎
7 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
8 連携と協働、家族への支援（認知症の理解）
9 障害の基礎的理解
10 障害の医学的側面の基礎的知識
11 連携と協働、家族への支援（障害の理解）
12 こころのしくみの理解、からだのしくみの理解、身じたくに関連したこころとからだのしくみ（こころとからだⅠ）
13 移動に関連したこころとからだのしくみ、食事に関連したこころとからだのしくみ（こころとからだⅡ）
14 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ、排泄に関連したこころとからだのしくみ（こころとからだⅢ）
15 睡眠に関連したこころとからだのしくみ、死にゆく人のこころとからだのしくみ（こころとからだⅣ）

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
大原出版「介護福祉士予想個別問題集、介護福祉士予想模擬問題集」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみ特論Ⅰ	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。
認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「こころとからだのしくみⅠ～Ⅲ、認知症の理解」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

こころのしくみに関する諸理論について理解する。
身じたく・移動・食事・入浴・清潔保持・排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。
認知症のケアの歴史や理念を理解する。
医学的側面から見た認知症について理解する。
認知症の人の特徴的な心理・行動について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 こころのしくみの理解（講義・演習）
2 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（講義・演習）
3 移動に関連したこころとからだのしくみ（講義・演習）
4 食事に関連したこころとからだのしくみ（講義・演習）
5 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（講義・演習）
6 排泄に関連したこころとからだのしくみ（講義・演習）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 認知症を取り巻く状況（講義・演習）
9 医学的側面から見た認知症の基礎（講義・演習）
10 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活①（講義・演習）
11 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活②（講義・演習）
12 連携と協働（講義・演習）
13 家族への支援（講義・演習）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「こころとからだのしくみ、認知症の理解」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみ特論Ⅱ	（講義）	可児勝代

［実務経験及び授業との関連性］

老人福祉施設で介護福祉士として従事し、また施設運営管理及び認知症実践指導者も行っており、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	2学年前期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。
発達の観点からの老を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度の涵養に資する「こころとからだのしくみⅣ、障害の理解、発達と老化の理解」の総合的な学習。これまで学習した知識・技術にて得た知識を基に、介護福祉士として必要な資質を総まとめする。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解する。
死について理解する。
医療職との連携について理解する。
障害の概念について理解する。
障害の医学的側面について理解する。
障害のある人の心理について理解する。
高齢者の心理を理解する。
高齢者の疾病と生活上の留意点について理解する。
保健医療職との連携の方法について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（講義・演習）
2 死にゆく人のこころとからだのしくみ（講義・演習）
3 障害の基礎的理解（講義・演習）
4 障害の医学的側面の基礎的知識①（講義・演習）
5 障害の医学的側面の基礎的知識②（講義・演習）
6 連携と協働（講義・演習）
7 確認ﾃｽﾄ1・採点・解説・やり直し
8 家族への支援（講義・演習）
9 人間の成長と発達の基礎的理解（講義・演習）
10 老年期の発達と成熟（講義・演習）
11 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活①（講義・演習）
12 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活②（講義・演習）
13 高齢者と健康（講義・演習）
14 確認ﾃｽﾄ2・採点・解説・やり直し
15 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版「こころとからだのしくみ、障害の理解」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
リハビリテーションの基礎	（講義）	安達智一

［実務経験及び授業との関連性］

介護老人保健施設に介護福祉士（実習指導者）として従事し、経験で培った知識、技術を統合し授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
15	30	1学年後期	選択

［授業の目的 ・ ねらい］

リハビリテーションの理念と基礎原理を理解させる（リハビリテーションのとらえ方）。障害の程度とその日常生活における影響について理解させる。また、リハビリテーションを展開していく過程について理解をさせ、日常生活における自立支援や社会生活能力を維持拡大するための援助方法を理解する。

［授業全体の内容の概要］

歴史的流れの中で、リハビリテーションの理念について学習し、障害を持つ人の自立支援について学ぶ。事例を通じて権利擁護や生活拡大への援助方法について学び、介護福祉士の役割について理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

リハビリテーションの理念を学ぶことで、日常生活における自立支援・生活能力の維持に向けて援助できる。他機関との連携や介護福祉士としての役割を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 リハビリテーションの歴史・定義（講義・演習）
2 病気と障害（講義・演習）
3 リハビリテーションと心理（講義・演習）
4 リハビリテーションの諸段階（講義・演習）
5 リハビリテーションの過程（講義・演習）
6 リハビリテーションを支える社会保障制度（講義・演習）
7 介護保険下でのリハビリテーションと介護予防
8 身体の自然な動きとは～筋肉・関節、関節可動域・筋力強化、日常生活動作～（講義・演習）
9 代表的なリハビリテーションの手法と福祉用具（講義・演習）
10 事例を通して①～介護福祉士の行う日常生活リハビリ～（講義・演習）
11 事例演習①（講義・演習）
12 事例を通して②～介護福祉士の行う日常生活リハビリ～（講義・演習）
13 事例演習②（講義・演習）
14 事例を通して③～介護福祉士の行う日常生活リハビリ～
15 事例演習③まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
医歯薬出版株式会社「入門リハビリテーション概論第7版」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
医療的ケア	（講義・演習）	佐藤由一

［実務経験及び授業との関連性］

総合病院に看護師として勤務経験があり、現在有料老人ホームを経営する傍ら高齢者・障害者のケアを行っている。経験で培った知識、現場での最新の技術を授業に活かしている。

授業の回数	時間数	配当学年 ・ 時期	必修 ・ 選択
39	78	2学年前期	必修

［授業の目的 ・ ねらい］

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。

［授業全体の内容の概要］

平成23年に「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正が行われ、平成27年度より喀痰吸引等一部の医療的ケアが介護福祉士の職務として義務づけられた。そのため、関連する法制度や倫理など、医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎となる内容を学ぶ。また、喀痰吸引や経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

医療的ケアを安全・適切に実施する上で基礎となる内容を理解する。
喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。
経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を修得する。

（1）喀痰吸引
①口腔　5回以上
②鼻腔　5回以上
③気管カニューレ内部　5回以上

（2）経管栄養
①胃ろう又は腸ろう　5回以上
②経鼻経管栄養　5回以上

［授業の日程と各回のテーマ ・ 内容 ・ 授業方法］

コマ数

1 人間と社会
2 保健医療制度とチーム医療
3 安全な療養生活（喀痰吸引や経管栄養の安全な実施）
4 安全な療養生活（救急蘇生）
5 救急蘇生法演習
6 清潔保持と感染予防
7 健康状態の把握（身体・精神の健康）
8 健康状態の把握（健康状態を知る項目、急変状態について）
9 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引総論（呼吸のしくみとはたらき）
10 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引総論（いつもと違う呼吸状態、喀痰吸引とは）
11 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引総論（人工呼吸器と吸引）
12 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引総論（子どもの吸引について、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意）
13 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引総論（呼吸器系の感染と予防、喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認）
14 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引総論（急変・事故発生時の対応と事前対策）
15 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引実施手順解説（喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持）
16 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引実施手順解説（吸引の技術と留意点①）
17 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引実施手順解説（吸引の技術と留意点②）
18 高齢者および障がい児・者の喀痰吸引実施手順解説（喀痰吸引にともなうケア、報告および記録）
19 喀痰吸引演習（口腔内吸引①）
20 喀痰吸引演習（口腔内吸引②）
21 喀痰吸引演習（鼻腔内吸引①）
22 喀痰吸引演習（鼻腔内吸引②）
23 喀痰吸引演習（気管カニューレ内部①）
24 喀痰吸引演習（気管カニューレ内部②）
25 高齢者および障がい児・者の経管栄養概論（消化器系のしくみとはたらき）
26 高齢者および障がい児・者の経管栄養概論（消化・吸収とよくある消化器の症状、経管栄養とは）
27 高齢者および障がい児・者の経管栄養概論（注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点）
28 高齢者および障がい児・者の経管栄養概論（子どもの経管栄養について、経管栄養に関係する感染と予防、その他）
29 高齢者および障がい児・者の経管栄養概論（経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認）
30 高齢者および障がい児・者の経管栄養概論（急変・事故発生時の対応と事前対策）
31 高齢者および障がい児・者の経管栄養実施手順解説（経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持）
32 高齢者および障がい児・者の経管栄養実施手順解説（経管栄養の技術と留意点①）
33 高齢者および障がい児・者の経管栄養実施手順解説（経管栄養の技術と留意点②）
34 高齢者および障がい児・者の経管栄養実施手順解説（経管栄養に必要なケア、報告および記録）
35 経管栄養演習（胃ろうまたは腸ろう①）
36 経管栄養演習（胃ろうまたは腸ろう②）
37 経管栄養演習（経鼻①）
38 経管栄養演習（経鼻②）
39 まとめ

［使用テキスト･参考文献］	［成績判定基準］
中央法規出版 「介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」	（試験やレポートの評価基準など） 出席と試験により評価する。 優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下